

カキ「太秋」における条紋由来の汚損発生は、マルチ資材の被覆により軽減される

カキ「太秋」の条紋由来の汚損は、8月下旬までにマルチ資材(タイベックシートや白黒ポリ)を被覆することで、発生程度が軽減される。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室 (担当者: 湯田健太)

研究のねらい

カキ「太秋」は、大玉で食味も優れているが、品種特性として条紋が発生し、条紋周辺の黒変による汚損が問題になっている。現在、汚損果軽減対策として果実の袋掛けを実施しているが汚損果の発生が見られている。そこで、袋掛けに加えて樹冠下へのマルチ資材(タイベックシートや白黒ポリ)の敷設による汚損果軽減技術を確立する。

研究の成果

1. 被覆資材(タイベックシートや白黒ポリ)を施用した区は、無処理区と比べ樹冠下日射量が多い(表1)。
2. 条紋由来の汚損果(図1)について、棚栽培、立木栽培ともにマルチ区が無処理区に比べ発生程度が低い(図2、3)。
3. マルチ資材被覆による果実の糖度・硬度への影響は見られない(表2)。

成果の活用面・留意点

1. 2020年は立木栽培で8月25日、棚栽培で9月8日、2021年は立木栽培で8月26日、棚栽培で7月15日にマルチ資材を被覆した。
2. 2020年のマルチ資材はタイベックシート(ハードタイプ)、2021年のマルチ資材は白黒ポリを使用した。
3. 袋掛けは各年ともに梅雨明け後に実施した。
4. 枝が込み合い、樹冠下が暗い状態だとマルチの効果が少なくなる可能性がある。

表1 栽培管理における各年の樹冠下照度(%)

	平棚栽培		立木栽培	
	マルチ区	無処理区	マルチ区	無処理区
2020年	11.0	3.6	10.1	1.9
2021年	11.8	2.5	18.1	3.3

注1) 数値は計測日の日射量に対する同時刻の樹冠下の照度の割合

注2) 2020年は11/9、2021年は11/4に計測

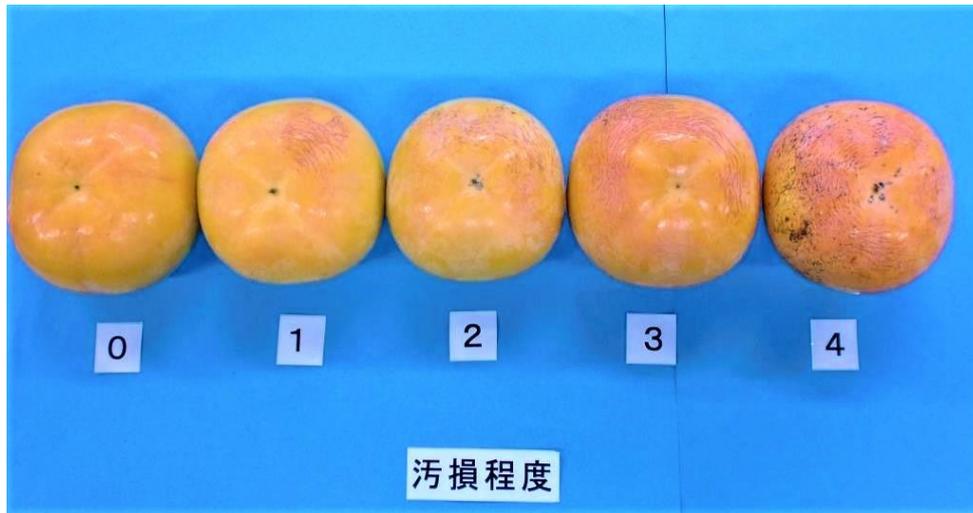


図1 汚損の程度(0:無、1:微、2:軽、3:中、4:甚)

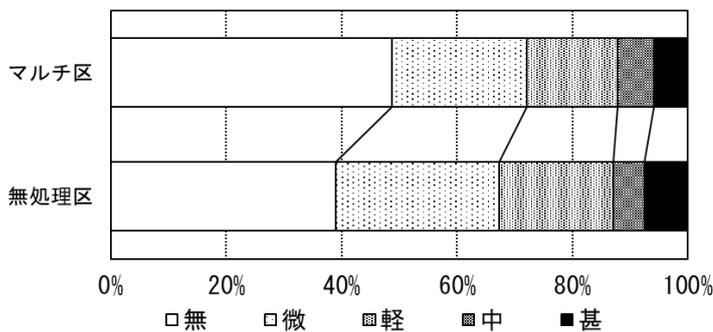


図2 平棚栽培における条紋由来汚損果の発生程度

(2020年、2021年の平均値)

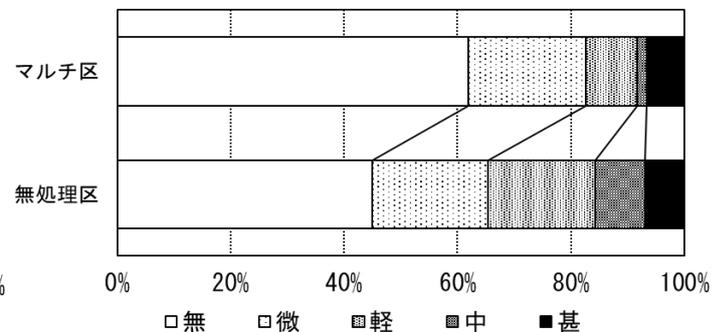


図3 立木栽培における条紋由来汚損果の発生程度

(2020年、2021年の平均値)

表2 土壌水管理の違いがカキ「太秋」の果実品質に及ぼす影響

年度	栽培方法	処理区分	果実重(g)	果皮色(C.C.) 赤道部	果肉硬度(kg)	糖度 (Brix)
2020年	平棚栽培	マルチ区	478	4.2	1.3	17.2
		無処理	463	3.9	1.4	17.4
	立木栽培	マルチ区	403	3.6	1.4	16.7
		無処理	406	3.8	1.4	17.3
2021年	平棚栽培	マルチ区	388	4.2	1.2	19.9
		無処理	379	4.1	1.2	20.5
	立木栽培	マルチ区	364	3.8	1.3	19.7
		無処理	354	3.9	1.2	18.8

注) 各処理区間では t 検定により、5%水準で有意差なし